

# KNCE NEWS

経団連  
自然保護協議会  
だより

No.90  
2022 Spring

自然保護協議会  
の活動について  
お知らせします  
また、自然保護  
の重要性を  
広く普及して  
まいります。



# NGO間の協働によって プロジェクトを大きく推進させよう



京都大学大学院 工学研究科 教授  
認定 NPO 法人 道普請人 理事長  
木村 亮氏

国際NGOは得意とする国で得意とする活動を行う。その活動を実施する中で新たなニーズが活動地で生まれた場合、初めからシーズを開発していると多大な時間がかかり、本来の活動からずれてしまう。そんな時、新たなニーズを解決するシーズを持つNGOを探せばよい。国内の活動を中心とするNGOでも、シーズが素晴らしければ、国際的な活動の世界に引っ張りだして協働すればよい。

私が作った造語に「パラサイトNGO」という言葉がある。「パラサイトNGO」は日本語で書くと「寄生NGO」である。ニーズはわかっているがシーズを持たないNGOに、名前は悪いが寄生することによって、活動範囲を広げるNGOのことである。適切な活動地域を見つけるのには、その国や地域での長い活動経験と、適切なファシリテータによる粘り強い地域住民や地域を代表する長老との交渉が必要である。

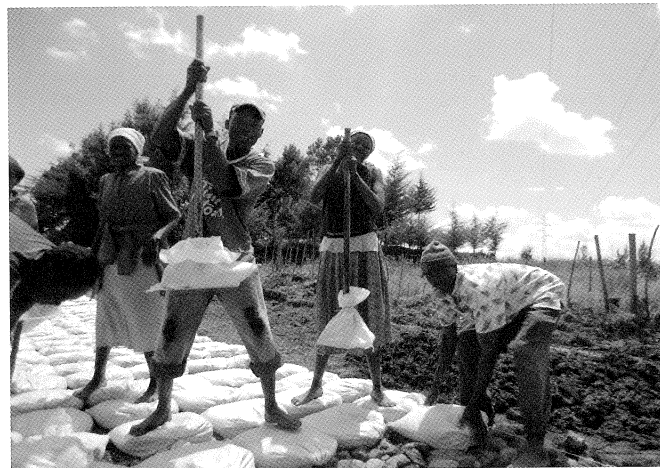
「パラサイトNGO」はそのような前置きをすべて省略して、住民の新たなニーズを解決できるシーズを持つ団体として現地に入り、元のNGOと一緒にうまく活動するのである。いくつかのNGOが一緒になって、協力目的を共有し、それぞれがそれぞれの役割で活動し、いい意味で寄生することによって、その相乗効果でよりよき国際NGO活動を行うのである。NGOのシナジー効果である。

私が理事長を務めるNGOの道普請人は、最もパラサイト活動をしやすい団体の一つである。「『自分たちの道は自分たちで直せる』という意識を広げる」を合

言葉に、未舗装道路を地域の住民と一緒に、現地資材を活用し、簡便にかつ経済的に改善する。学校の周りの道直し、病院や保健所の周りの道直し、農場の周りの道直し、お声がけいただければ、どこにでもフットワーク軽く参上する。箱モノの機能や生産活動拠点を有効に機能させるため、NGO連携に期待すべきで、すでに5つの国際NGOと協働作業を実施した。

ユニークな活動をする多くのNGOが存在し、地域密着型できめ細かい活動ができれば、またいくつかのNGOが連携して活動すれば、日本の存在を世界に知らしめることになる。また、地域住民に笑顔を提供でき、日本人の活躍の場を提供できることになる。

5年ほど前に、アフリカのビクトリア湖沿岸の村の環境改善を、日本のいくつかの国際NGOが協働して、大掛かりなプロジェクトを立ち上げようという動きがあった。村にきれいなトイレを造り、きれいな水を確保できる井戸を掘り、健康な生活を送れる病院や保健所を造る。植林をしながら小さな果樹を生産できる森を再生し、雨期になると泥濁化する村の道を強固にして学校や病院や市場に行きやすくする。一つのNGOでは到底不可能なことが、多くのNGOを束ねて活動することによって可能になる。NGO間の協働が持続的な社会を作る鍵になり、SDGsの具現化になると私は信じている。



ケニアの青空の下で道作り